

# 木もれ陽

文責 平川 千秋

## 秋は夕暮れ

10月に入り、日没がだいぶ早くなった気がします。ちょっとお天気が悪い日など、5時半には真っ暗になっています。昔の人は「秋の日は釣瓶落とし」と言いました。「釣瓶（つるべ）」というのは、井戸の水をくみ上げるために、なわや さおの先につけた おけのことです。空の釣瓶はすとんと井戸に落ちていきます。つまり「釣瓶落とし」とはまっすぐに急速に落ちるさまを言います。いつまでも明るさが残っていた夏とは違い、秋は急に日が暮れることを表現している言葉です。



最終下校時刻は16時45分。暗くなる前に安全に帰宅できるようにしましょう。

さて、小学校でも学んだ『枕草子』。作者清少納言は第一段で「秋は夕暮れ。夕日のさして山のはいとちかうなりたるに……」と書きました。千年以上も前の随筆ですが、既に小学校で学習し、この第一段の部分は「春はあけぼの。」を含め季節ごとに暗唱できている生徒も多いかと思えます。中学校では2年生の古典の単元で扱い、筆者のものの見方を考えたり、自分なりの季節感を文章で表現したりします。「秋は夕暮れ（が趣深くていい!!）」夕暮れの景色の移り変わるさまをじっくりと味わう心のゆとりをもつと清少納言に近づけるのかもしれない。

ここ数年、異常気象という言葉が定着し、豪雨・竜巻・雷等の注意報や警報がしばしば発令され、なんだか高温の夏と厚着が必要な冬ばかり長くなって、春と秋の時間が短くなったように感じます。四季の繊細な移ろいを味わいたいけれど、冷房や暖房に慣れてきて日々鈍感力が増していくことにちょっとドキッとしてしまいます。和歌にも多く詠まれている「秋の夕暮れ」の趣深さ。

玉造中のみなさんは「秋」と言われると、どんな景色が目に見えますか。どんな音が聴こえてきますか。どんな匂いや味、感触を思い浮かべますか。体全体で季節を味わってみた時に、千年前を生きていた古（いにしえ）の人と心通じる瞬間があり、ありふれたものの中にも新たな発見があるかと思えます。

日没時間が早くなり、夜の時間が長くなるこれからの時期には「灯火親しむべし」という言葉もあります。家庭学習や家族との団らんの後、スマホやゲームからちょっと手を放して、本を手にとってみませんか？図書室でも今年購入した本を含め、たくさんの本が皆さんが手に取ってくれるのを待っています。

## 【成田市ではインフルエンザ予防接種費用が助成されます】

この冬は新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行が懸念されています。成田市では、感染症の重篤化の防止、医療機関の診療負担の軽減、予防接種者の経済的負担の軽減を目的として予防接種の助成を拡大しています。中学生については、以下の通りです。

対象期間：令和2年10月1日（木）～12月31日（木）（今年度限り）

接種回数：1回（ただし13歳未満の人は2回）

助成額：1回2000円（自己負担額が助成額を下回る場合は自己負担額を助成）

